

仙台城下の本陣・外人屋の管理にあたった町役人「米川十右衛門」

国分町にあった外人屋

夜遅くまでにぎわう国分町の通りは、江戸時代の奥州街道、すなわち江戸から北に向かい、仙台を通って津軽まで至る陸の大動脈の一部でした。盛岡藩・八戸藩の大名行列、そして奥州各地や蝦夷地（北海道）視察の幕府役人たちがこの道筋を通ったのです。

そうした要人の宿泊のためには「本陣」と称される施設が各地の城下町や宿場町に設けられていました。仙台城下には「本陣」と呼ばれる施設はありませんが、代わりに国分町に「外人屋」という屋敷が設けられ、本陣の役割を果たしていました。明治時代、東北巡幸の際に明治天皇の宿泊所選ばれたのもこの国分町の外人屋でした。

もともと、この外人屋は大町にあり、伊達政宗晩年の居所であった若林城の御殿の一部を移築したという記録も残っています。やはり大名や幕府要人が用いるにふさわしい立派な建物が置かれていたのでしょう。

伊達家当主の直轄部隊

この大町にあった外人屋は、江戸時代中期に奥州街道が通る国分町に移されましたが、江戸時代後期にこの外人屋の管理にあたった

のが米川家です。米川家は戦国時代には伊達家の家臣として、何度か合戦の場にも出たことがある家柄でした。政宗に従って、米沢から岩出山に移り、仙台城下がつくられた際に大町二丁目屋敷を与えられたと米川家の系譜は記しています。

実は米川家だけでなく、伊達家とともに米沢から岩出山、仙台へと移ってきた、いわゆる「御譜代町」の町人たちは、単なる商人や職人ではありませんでした。彼らは戦いの際には、鉄砲や弓を手にして伊達家当主の旗本（直轄部隊）となる役割も持っていたのです。江戸時代に入ると、「土農工商」の言葉で表される身分制が強まり、町人や農民が藩の軍事力の一翼を担うことはなくなり、「御譜代町」についても、次第に伊達家当主の直轄部隊だったという古い記憶は失われていくようですが、「御譜代町」という誇りの奥底には、かつての歴史的経緯がしっかりと埋め込まれていたのかもしれない。

仙台で最初の郵便局

米川家は、大町二丁目と二丁目を統括する年行仕という町役人を代々務めますが、享和三（一八〇三）年、十代目十右衛門の時に国分町を統括する検断という町役人になるとともに外人屋の管理も行うことになりました。以

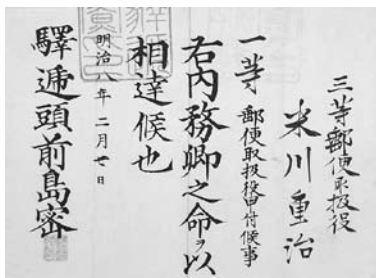
後、米川家は国分町に移り住み、検断の職と外人屋の管理を世襲していますが、中でも十二代目の十右衛門（重右衛門とも）が傑出した人物だったようです。

文化八（一八一二）年生まれの十右衛門は、昭和初期の文献には、「任侠」の性格で、古老として畏敬されたと記されています。もちろん「任侠」と言っても、やくざだったわけではなく、義侠心に富む性格だったということでしょうか。

ともかく、十二代目米川十右衛門は仙台城下の町役人の中でも指導的立場にあり、城下の町政に寄与しただけでなく、藩の経済政策にも参画し、特産物の育成や近江商人からの資金借入などにも関与したことが記録に残っています。

その後、明治の時代になり、外人屋は米川家の屋敷となりますが、ここに明治五（一八七二）年、仙台で初めての郵便取扱所、すなわち郵便局が設けられました。

かつて、郵便局は土地土地の有力な家を選んで設置されたといえます。仙台で最初の郵便局が置かれたという事実は、仙台城下における米川家の地位や役割を、如実に示していることができます。



米川家13代の重治に一等郵便取扱役（郵便局長）を命じた明治8（1875）年の辞令。「郵便の父」と呼ばれた前島密の名前で出されている。仙台市博物館所蔵米川家文書。

仙台市史

特別編8 慶長遣欧使節

伊達政宗の外交使節・支倉常長の足跡が明らかに！

◆B5判 630頁 オールカラー ◆定価 6000円(本体 5715円)

最新刊
5月
発売予定



支倉常長

お求め先 県内主要書店・仙台市博物館／株式会社宮城教科書供給所 TEL.022-235-7181 FAX.022-235-7183
お問い合わせ先 仙台市博物館市史編さん室 〒980-0862 仙台市青葉区川内 26 番地 TEL.022-225-3074